

Nara National Museum

# 奈良国立博物館 だより

第81号

平成24年4・5・6月



重要文化財 仏涅槃図(陸信忠筆)(部分) 当館蔵(展示期間6/19~7/16) 一名品展「珠玉の佛教美術」より—

特別展

御遠忌800年記念特別展  
解脱上人 貞慶  
—鎌倉佛教の本流—  
4月7日(土)~5月27日(日)  
東・西新館

特別陳列

古事記の  
歩んできた道  
—古事記撰録1300年—  
6月16日(土)~  
7月16日(月・祝)  
西新館

名品展

珠玉の仏たち  
通期開催  
なら仏像館  
中国古代青銅器  
通期開催  
青銅器館(坂本コレクション)

珠玉の佛教美術  
4月7日(土)~  
7月16日(月・祝)  
西新館

御遠忌八〇〇年記念特別展

# 解脫上人貞慶

— 鎌倉仏教の本流 —

4月7日(土)～5月27日(日)

今年は、解脫上人貞慶(一一五五～一二一三)の八〇〇年遠忌の年

にあたります。鎌倉時代前期に活躍した貞慶は、はじめ興福寺で学僧として活動し、後に笠置寺へ、さらに海住山寺へと移りました。戒律を大切にした貞慶は、釈迦如来・弥勒菩薩・觀音菩薩・春日明神をとりわけ深く信仰し、由緒ある寺々の復興や仏教の再生に大きな貢献を果たしました。御遠忌を機に、貞慶の魅力を多くの方々に知っていただくため、この特別展を開催いたします。



◎十一面觀音立像(京都・海住山寺)



◎金龕舍利塔(奈良・唐招提寺)



解脫上人貞慶像(部分) 奈良・唐招提寺  
背景:明本鈔 卷第十三(部分) 奈良・興福寺



◎笠置曼荼羅(大和文華館) (展示期間4/7～5/6)



春日権現観絵 卷十六(部分)(宮内庁三の丸尚蔵館) (展示期間4/24～5/20)

◎国宝 ◎重要文化財

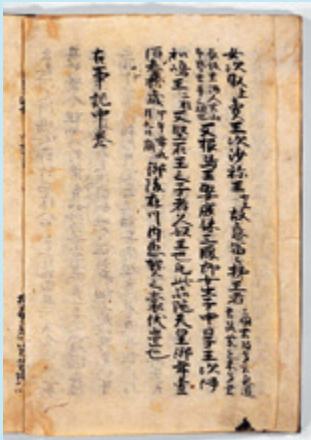
# 古事記の歩んできた道

—古事記撰録1300年—

6月16日(土)～7月16日(月・祝)

平成二十四年(2012)は、和銅五年(712)に『古事記』が撰上されてから、ちょうど千三百年の記念の年に当たります。

本展は、『古事記』の現存最古の写本(真福寺本)を中心に、そのテキストを補完する古写本、奈良時代に日本語で書かれた資料、本居宣長をはじめ後世に『古事記』を研究した人々の著作などを展示し、『古事記』という書物が十三百年にわたつて読み継がれてきた、その軌跡を描くものです。



◎古事記 中巻 卷末部分(愛知・宝生院)  
(展示期間:7/10～7/16)



◎太安萬侖墓誌(文化庁)



古事記(梵舞本)上巻(國學院大學図書館)

# 頼朝と重源

—東大寺再興を支えた鎌倉と奈良の絆—

7月21日(土)～9月17日(月・祝)

治承四年(1180)の南都焼き討ちにより、東大寺は伽藍の大半を失うとともに、日本仏法の象徴たる盧舎那大仏にも甚大な被害が及びました。この未曾有の法難に際し、仏法を再生すべく大勧進として再興事業を指揮したのが俊乗房重源です。重源は後白河法皇の支援のもと大仏の铸造や大仏殿の建立をなど次々に成し遂げますが、建久三年(1192)に法皇が崩ずると、その後を受けた源頼朝が最大の外護者となります。頼朝は資金や物資の調達のみならず、大仏殿安置の巨像群の造立を御家人に分担させるなど、まさに「大檀越」と称されるにふさわしい活躍でこの大事業を支えました。

本展では、運慶・快慶らによつて生み出された新時代の幕開けを象徴する仏像の数々や、重源の思想が色濃く反映された宝物、再興の経過や当時の時代の空気を伝える品々を一堂に集め、また從来注目されることの少なかつた栄西・行勇の活躍にも光を当てることで、半世紀余りに及ぶ再興の軌跡をたどります。



◎籠菊螺鈿蒔絵硯箱(神奈川・鶴岡八幡宮)



◎源頼朝像(京都・神護寺)



◎重源上人坐像(奈良・東大寺)







【表紙写真解説】

重要文化財 仏涅槃図 陸信忠筆

中国 南宋(13世紀)  
当館蔵

釈迦が大きな体を横たえ、口元にほほえみを浮かべながら目を閉じている。上方からは釈迦の母摩耶夫人が釈迦の入滅を聞き訪れる。周囲の者は釈迦の横たわる台に上がりこみ、ある者は悲しみの表情を浮かべ、ある者は釈迦の入滅を信じられないのか、体を揺するような仕草である。一方で前方の僧は比較的落ち着きを見せて手を合わせる。正面では仏涅槃の後に供養のために行われたという舞踊が繰り広げられる。

鮮やかな色彩や生々しい表情が特徴的な絵画であるが、画面に向かって右側、釈迦の横たわる宝台の脇にある墨書銘から、中国浙江省の寧波地域で、陸信忠という画家によつて製作されたことがわかる。陸信忠の名は他に十王図や羅漢図など、日本に伝存した絵画の銘文に認められるものの、中国の絵画史上には残っていない。こうした状況から、陸信忠は地元で活躍した画家で、こうした絵画は寧波を経由して中国へ行き来した僧や商人によつて日本に持ち込まれたと考えられている。本図は愛知県の宝寿院伝来で、もとは隣接する津島神社の牛頭天王社に奉納されていた。

北澤 菜月（当館学芸部研究員）

● サンデートーク ●

「第3日曜日は奈良博へ！」

毎月一回、第3日曜日の午後に、当館研究員や専門家がとつておきのお話をいたします。美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通」なお話を用意して、皆様をお待ちしております。お気軽にご参加下さい。

聴講は無料、展覧会観覧券等の提示は必要ありません。事情により話題内容が変わることもありますので、詳しくは当館ホームページをご参照の上お出かけ下さい。

- 4月15日 「金龜舍利塔の話」  
内藤 栄（当館学芸部長補佐）
- 5月20日 「奈良国立博物館と東日本大震災」  
岩戸 晶子（当館学芸部研究員）
- 6月17日 「『奈良官遊地取』 芳崖の古美研」  
原 瑛莉子（当館学芸部研究員）
- 7月15日 「東アジアの仏教絵画」  
北澤菜月（当館学芸部研究員）
- 8月19日 「雨を祈る 請雨修法と奉幣」  
斎木 涼子（当館学芸部研究員）
- 9月16日 「古地図を読みとく、再び。」  
野尻 忠（当館学芸部企画室長）
- 10月21日 「第三回 茶室・八窓庵をのぞいてみませんか」  
吉澤 悟（当館学芸部情報サービス室長）
- 11月18日 「図像から彫像へ－十二神将像にみる仏師の創造性－」  
山口 隆介（当館学芸部研究員）
- 12月16日 「仏像調査からわかること その2」  
岩田 茂樹（当館学芸部長補佐）

各回とも午後2時～3時30分(午後1時30分に開場)

当館講堂にて

定員194名(先着順)

聴講無料

◆奈良国立博物館賛助会

平成24年3月31日現在、一般会員(個人)39名、一般会員(団体)19団体、特別会員5団体、特別支援会員5団体のご入会をいただいております。新しく加入された方をご紹介します。

【一般会員(個人)】 吉本 健吾 様 (平成24年2月ご入会)

鵜飼 禮子 様 (平成24年3月ご入会)

鍵岡 瑞典 様 (平成24年3月ご入会)

◆キャンパスメンバーズ

平成24年3月31日現在、「キャンパスメンバーズ」の会員大学等は以下の通りです。

大阪成蹊大学芸術学部、大阪大学、関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、京都外国语大学・京都外国语短期大学、京都教育大学、京都工芸総合大学、京都嵯峨芸術大学・京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都精華大学、京都大学、京都橘大学、京都伝統工芸大学校、京都文教大学、京都文教短期大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院文芸学研究科、実践女子大学・実践女子短期大学、就実大学人文科学部、帝塚山大学・帝塚山高等学校、天理大学、同志社大学・同志社女子大学・同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良佐保短期大学、奈良産業大学・奈良文化女子短期大学・奈良文化高等学校・奈良学園高等学校・奈良学園登美ヶ丘高等学校、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部(以上、五十音順)

重要文化財  
青磁碗・皿 [島根県出雲萩原古墓出土品]

当館蔵

碗:口径13.4~13.8cm、皿:口径17.1cm  
中国・南宋(13世紀)

古い時代のお墓、とりわけ身分の高い人のお墓には、その時代のお宝が副葬されていることが多い。現代においても文字通りの「宝庫」であるが、こと焼物に関しては、完全な形を留める優品の大半はお墓を出所としていると考えてよい。本品はまさにそうした優品の一例である。

昭和40年(1965)、出雲平野を流れる斐伊川左岸が開墾された際に、小さな微高地が掘削された。地表には宝篋印塔の残がいが散り、地下には常滑の大甕が埋設されていたことから、そこは鎌倉時代のお墓であったことは間違いない。甕の中から発見されたのは、若干の人骨とこの青磁の碗・皿3口だけだったので、墓の主はさぞかしこの器に愛着をもっていたと思われる。

碗は、外面に25葉の鎧蓮弁を表した端整な作りで、爽やかな翡翠色の青磁釉がむらなくかかる。高台の地付部分のみ、釉を搔き取り露胎としている。この肌の赤褐色が、夢心地に広がる翡翠色の縁をきりりと引き締めている。中国・南宋時代の龍泉窯の産とみて間違いない、日本国内の伝存品でも指折りの名品である。色も形も素晴らしい、手にとって鑑賞してもらえないのが口惜しい。皿は碗と同質だが、鎧は内面に設けられており、見込みに草花文の陰刻がなされている。

鎌倉時代の出雲でこれだけの逸品を所有できた人は、いったい誰であろうか。そして入手ルートは? 具体的な名前は私たちにも挙げられない。しかし、愛藏品の質の高さをみるかぎり、舶来品に「目がない」人、しっかりした審美の「眼がある」人、であったのは間違いない。



名品展の  
みどころ

刺繡釈迦阿弥陀二尊像

当館蔵

刺繡  
縦127.0cm 横52.0cm  
鎌倉時代(13~14世紀)



刺繡で仏の像を表す繡仏は、一般にはなじみの少ない作品であろう。しかし、古代のわが国ではきわめてポピュラーな造像表現の一つであり、平城京の薬師寺講堂に懸けられた刺繡阿弥陀淨土図のように大寺院の主要堂宇の本尊とされる例もあった。しかし、平安時代になると繡仏の製作は急激に少くなり、私の知る限り平安時代の繡仏作品は伝わっていない。再び繡仏が製作されるようになるのは鎌倉時代以降であり、阿弥陀信仰に関わる作品を中心に作例を見ることができる。この時代、当麻曼荼羅を織ったとされる中将姫に対する信仰が盛んとなり、一針一針刺繡をする作善が中将姫を想起させ、繡仏の復活を見たのではないかと思われる。

この作品は全面を刺繡で表した作品で、中世の繡仏としては大作に属する。画面は上中下の三段に分けられ、上段は飛天や楽器、及び『法華経』と『大無量寿經』の偈、中段は釈迦如来と阿弥陀如来の立像、下段は迦陵頻伽が遊ぶ蓮池を表している。釈迦・阿弥陀像は蓮華座に立ち、宝相華文を透影した豪華な光背を負い、頭上には天蓋を掲げている。仏前には華瓶一対と前机に載る獅子形香炉が見られる。このような表現から実際の仏像を写したのではないかと推定される。刺繡糸は絹糸を主とし、仏像の頭髪や袈裟の一部と偈に人の頭髪を用いている。刺し繡い、留め繡い、こま繡い、まつい繡いなどの刺繡技法が用いられており、刺繡表現は精緻である。

釈迦と阿弥陀の二尊は、この世から往生者を浄土に送る釈迦と、浄土で往生者を迎える阿弥陀を表したものである。阿弥陀浄土への往生を祈願した人物が日々礼拝した本尊であったと思われる。

吉澤 悟(当館学芸部情報サービス室長)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて4月7日から7月16日まで展示

内藤 栄(当館学芸部長補佐)

◆西新館 名品展「珠玉の仏教美術」にて4月7日から5月13日まで展示

開館日時(4月~6月)

[開館時間]

午前9時30分~午後5時

[開館時間延長日]

午後7時まで

4月27日(金)・28日(土)

5月4日(金・祝)・5日(土・祝)・11日(金)・12日(土)

18日(金)・19日(土)・25日(金)・26日(土)

6月1日(金)・8日(金)・15日(金)・22日(金)・29日(金)

※いずれも入館は、閉館の30分前まで

[休館日]

毎週月曜日(休日の場合はその翌日、連休の場合は終了後の翌日)

[臨時開館日]

4月30日(月)、5月1日(火)

観覧料金  
名品展・特別陳列

	一般	大学生	高校生以下
個人	500円	250円	無料
団体	400円	200円	無料

※団体は20名以上です。※満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※5月5日(土)こどもの日、5月18日(金)国際博物館の日は、名品展が無料でご覧になれます。

特別展 解脫上人 貞慶

	一般	高校・大学生	小・中学生
個人(当日)	1,200円	800円	500円
団体	1,100円	700円	400円

※団体は20名以上です。※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。



[交通案内]近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス「氷室神社・国立博物館」下車

\*当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。

奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内) ハローダイヤル 050-5542-8600 ホームページ(PC用)<http://www.narahaku.go.jp/> (携帯用)<http://www.narahaku.go.jp/mobile/>



「奈良国立博物館だより」は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。  
※返信用封筒には宛名を明記し、長形3号の場合は90円切手を、角形2号の場合は120円切手を貼付してください。